

このプロジェクトは、横浜港発祥の地である象の鼻地区を、横浜開港 150 周年にあわせて「象の鼻パーク/テラス」として再整備したものである。明治期に建設された防波堤が関東大震災により一部沈下した状態となっていたが、その復元とともに、多彩な催しに対応できる広場と、文化芸術発信拠点となるカフェ・休憩所の建設が行われた。敷地は山下公園や赤レンガ倉庫などの名所が並ぶ水際線の軸と日本大通りの都市軸との交差点にあり、これまで意欲的な都市計画を行ってきた横浜において、港とまちの魅力づくりが結実する場所となっている。その地に、歴史的な要素の活用、周辺の景観との調和、新たな夜景の創出などを軸として、ランドスケープおよびそれと一体化した建築と、みなと横浜の原点を可視化するサークル状に並ぶ照明スクリーンを提案している。その中心施設である象の鼻テラスは、横浜が推進するクリエイティブシティ構想のひとつの拠点として位置づけられ、日常的な憩いの場であるとともに祝祭性を感じさせる場所として、多くの市民や観光客が訪れる新たな横浜の名所となっている。

This is a landscape and architectural design project of Zou-no-hana area, which is the birthplace of Yokohama port, for the 150th anniversary of Yokohama. A series of screen panels made with FRP grazing and cast metal are arranged circularly creating a landscape with big gesture integrating reconstructed breakwaters. Surrounding the screens, there exist scenic spots of Yokohama such as the three towers of Yokohama, the Ferry Terminal, and the Red Brick Warehouse. At night, the screens become luminous to appeal this birthplace of Yokohama Port to the surroundings. An architecture is also embedded within the landscape as a part of slope covered with grass to provide people a place to encounter with various people and cultures.

At night, the screens become luminous to appeal this birthplace of Yokohama Port to the surroundings. An architecture is also embedded within the landscape as a part of slope covered with grass to provide people a place to encounter with various people and cultures.

象の鼻パーク/テラス

ZOU-NO-HANA Park/Terrace

小泉雅生 / 小泉アトリエ

Photo : Toshio Kaneko

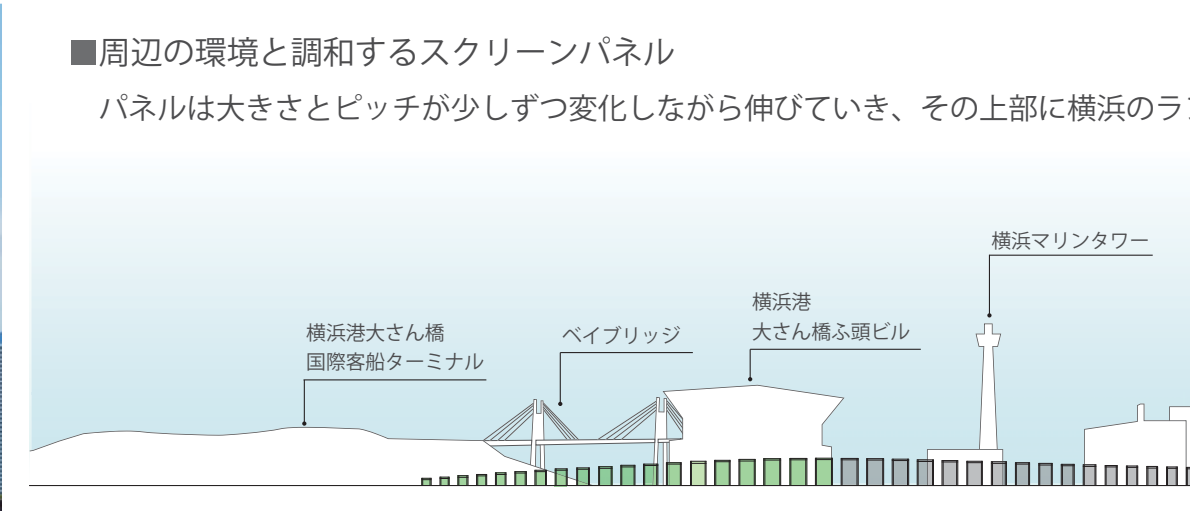
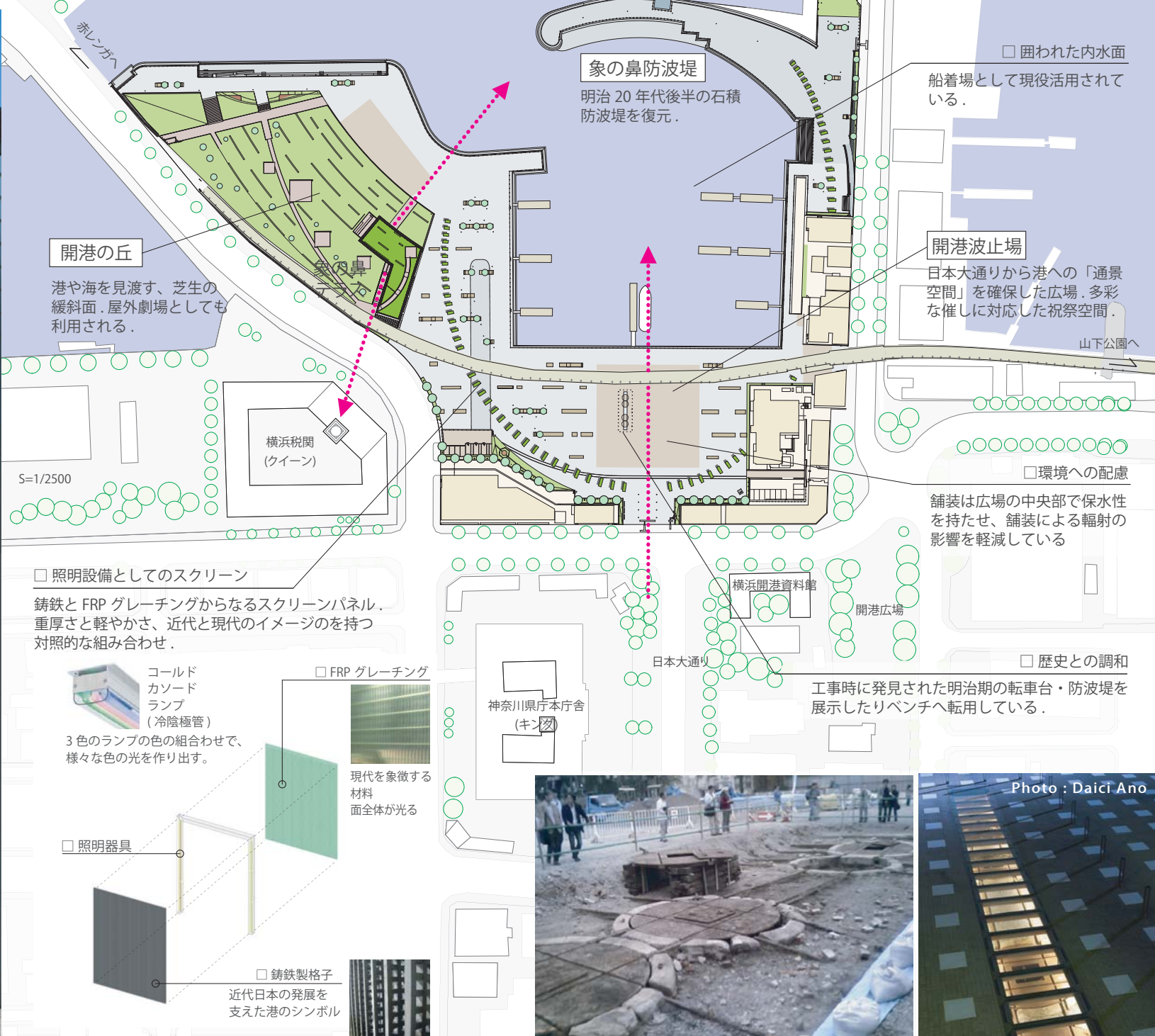
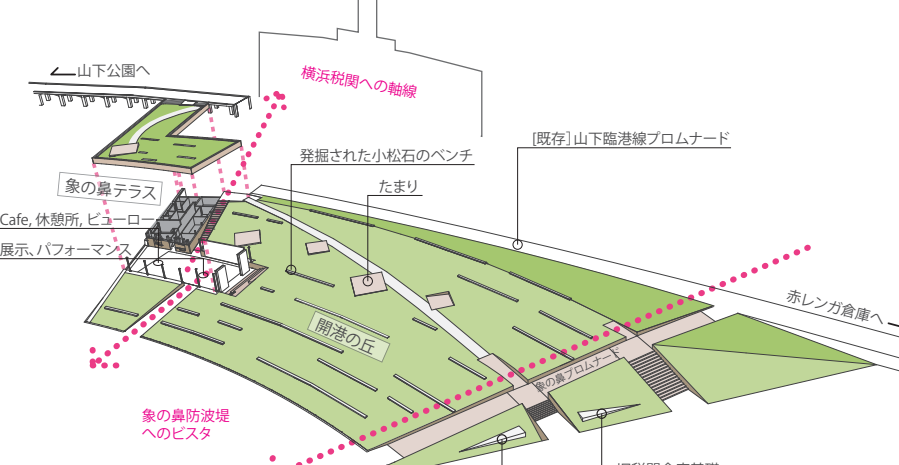
サークル状に配されたパネルは、時刻に応じて色が変わり、幻想的な夜景を作り出す。「みなと横浜」の原点が光のサークルとして地上に浮かび上がる。

Park

「開港の丘」、「象の鼻防波堤」、「開港波止場」の3つのエリアで構成され、内水面を大きく円形に囲い込むように壁柱状のパネルを配している。小さいエレメントを点列としてつなぐことで大きな風景を描き出すことを意図している。照明としての役割を果たし、夜には「みなと横浜」の原点を可視化する大きなサークルが地上に浮かび上がる。パネルの上部には横浜三塔などの横浜を代表する景観が展開し、敷地内外の歴史やコンテキストを、フィジカルにしてメタフィジカルにつないでいく。

Terrace

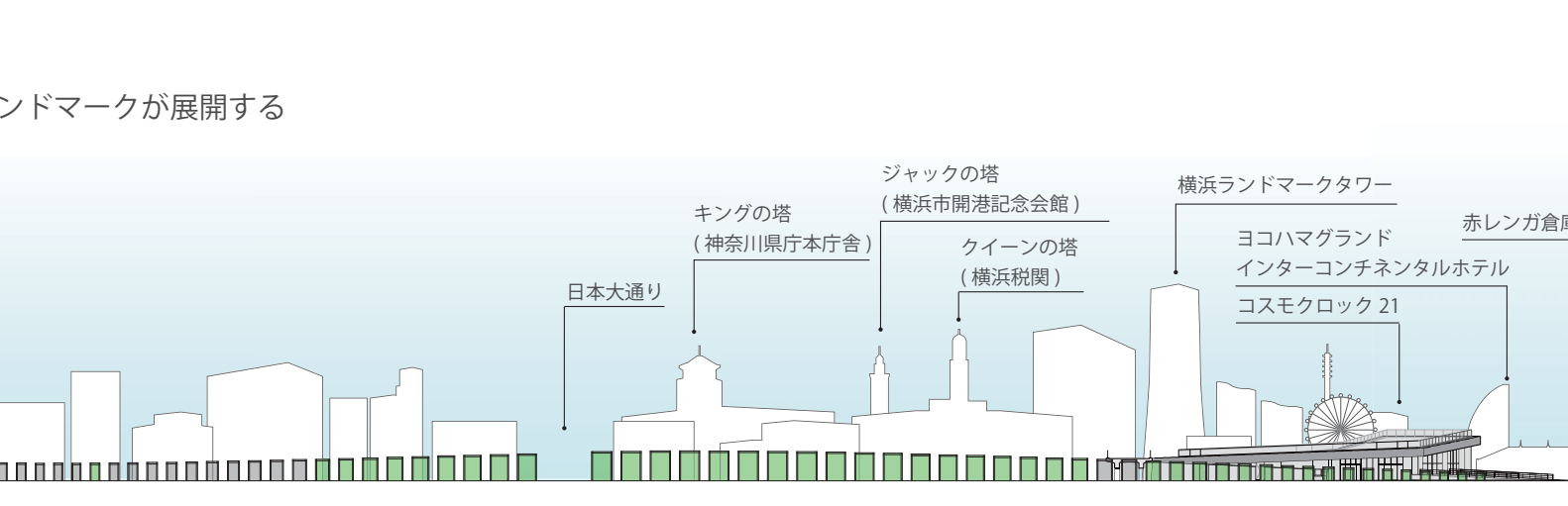
カフェ・休憩施設は周辺への景観を阻害しないように、芝生の斜面がめくればあったような形として、ランドスケープと一体化させた建築としている。さらに周囲のランドマークへの軸線にあわせて切り込みを設け、利用者の意識を周囲へと向けている。周辺環境と共存を図る建築である。機能としては、テラス休憩・カフェ機能と展示・上演機能を併せ持つ、いわゆるオルタナティブ・スペースとなっている。立地特性を活かし、従来型の閉じた展示・上演空間ではなく、芝生の緩斜面や海とのつながりを持つ拡がりのある展示・上演空間となっている。



■周辺の環境と調和するスクリーンパネル
パネルは大きさとピッチが少しずつ変化しながら伸びていき、その上部に横浜のランドマークが展開する



景観との調和
象の鼻地区から周辺の夜景を楽しむことができるよう配慮するとともに、自身が新たな名所となるべく特徴的な夜景を作り出している。一般的なポール灯を押し低い位置から路面を照らしたり、手すりに照明を組み込んで下方を照らすことなどにより、床面照度を確保して利用者の安全に配慮しつつ夜景をディスタートしない照明計画としている。
建築の屋上は緑化し、周囲の緑地と連続するオープンスペースとするとともに、港を見下ろす視点場として整備している。



評価項目	評価項目に対する設計者のデザイン	自己評価		
		0	+1	+2
A. 感性軸 (感性) Form	01 審美性	○	○	○
	02 調和性	○	○	○
	03 独創性	○	○	○
	04 象徴性	○	○	○
	05 完成度	○	○	○
B. 機能軸 (技術) Technology	06 機能性	○	○	○
	07 効率性	○	○	○
	08 利便性	○	○	○
C. 社会軸 (環境) Environment	09 安全性	○	○	○
	10 先進性	○	○	○
	11 環境負荷	○	○	○
	12 資源活用	○	○	○
	13 地域貢献性	○	○	○
D. 経済軸 (LCC) Life Cycle Cost	14 持続性	○	○	○
	15 汎用性	○	○	○
	16 拡張性	○	○	○
	17 効率性	○	○	○
	18 維持管理	○	○	○
	19 耐久性	○	○	○
	20 LCC	○	○	○

■建築概要
用途：港湾緑地 / 公会堂または集会場
所在地：神奈川県横浜市
敷地面積：3.3ha (象の鼻パーク)
延床面積：604㎡ (象の鼻テラス)
構造規模：S造、地上1階
設計：小泉アトリエ 小泉雅生
照明デザイン：LIGHTDESIGN INC. 東海林弘晴